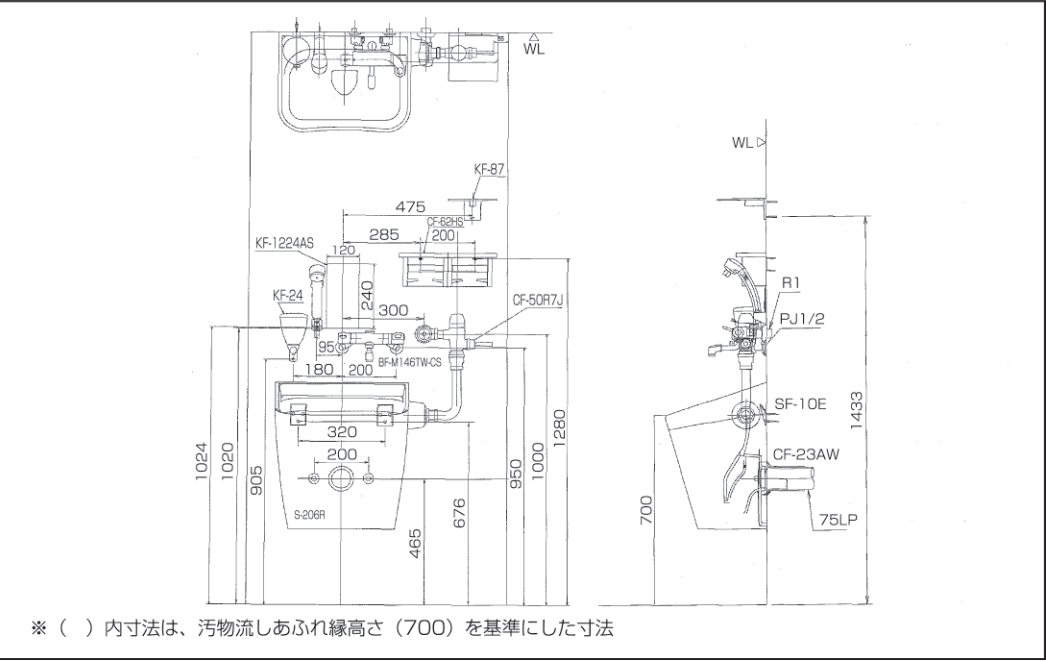


施工説明書

オストメイト対応流し

- このたびは当社商品をお買い求めいただき、誠にありがとうございました。
- この施工説明書をよく読み、正しく本商品を施工してください。
  - 施工後は必ず正常に作動することをご確認ください。
  - お客さまに必ず本書と取扱説明書をお渡しください。

●施工完了図



●安全上のご注意

- 施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
- ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 施工終了後、正常に作動することを確認するとともに、お客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- この施工説明書はお客様で保管頂くよう依頼してください。

用語の解説

**注意** ... 「取扱を誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」

記号の解説

... 「注意しなさい!」（上記の『注意』と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。）

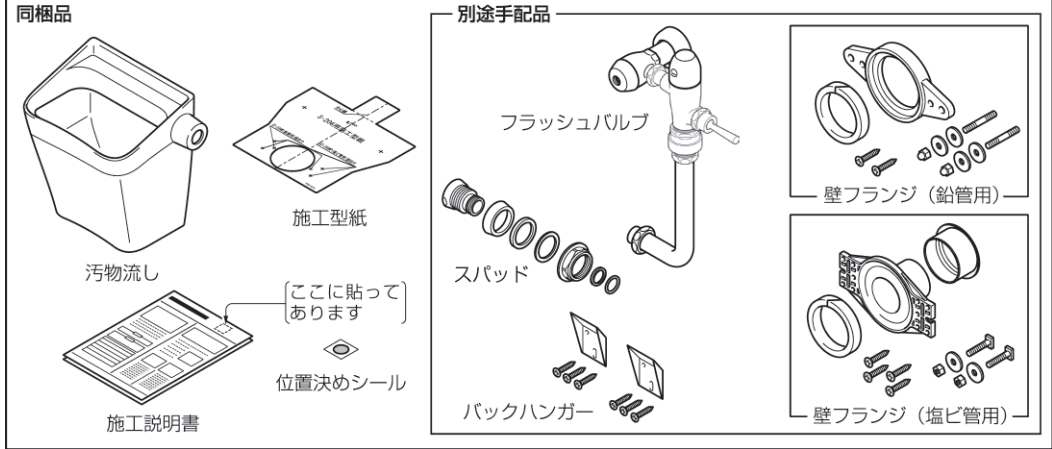
... この表示は、してはいけない「禁止」の記号です。

... この表示は、必ず実行していただく「強制」の記号です。

|                                                                                                                |  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| <div><div></div><div>注意</div></div>                                                                            |  |
| 汚物流しは割れものです。<br>●施工前に輸送中の破損がないことを確かめてください。<br>●施工後に施工段階での破損がないことを確かめてください。<br>※破損部でケガをしたり、漏水により家財等を濡らす恐れがあります。 |  |
| 汚物流しに対するねじは締めすぎないようにしてください。<br>※汚物流しが割れてケガをする恐れがあります。                                                          |  |
| 施工後に漏水検査を必ず行ってください。<br>※漏水により家財等を濡らす事があります。                                                                    |  |
| 汚物流しに熱湯を注がないでください。<br>※汚物流しが破損してケガをしたり、漏水のため家財を汚す原因になる事があります。                                                  |  |
| 汚物流しに硬いものを落とさないでください。<br>※汚物流しが破損してケガをしたり、水漏れのため家財を濡らす原因になる事があります。                                             |  |
| 汚物流しにひびが入ったり、割れた場合、破損部には素手で触らないでください。<br>※破損部でケガをすることがあります。                                                    |  |
| 汚物流しの重量は30kg程度です。取付作業は、2人で行うことを推奨します。<br>※腰を痛めたり、汚物流しを落としてケガをする恐れがあります。                                        |  |
| 取付壁には十分な強度を確保してください。強度が足りない場合には、別途下地補強を設けてください。壁がたわみ、洗浄不良や詰まりの原因となる上、汚物流しが落下し破損する恐れがあります。                      |  |

S-206R

●部品の確認



●取付壁の条件について

- 【木造壁の場合】
- 取付強度を保つため、下地には12mm以上の JAS 規格合板相当をご使用ください。補強木は構造体への固定を行ってください。
- 【コンクリート壁の場合】
- 取付部の奥行はコンクリート厚 70mm 以上を確保してください。
- ※汚物流しの重量が 30kg 程度ありますので、補強が不十分ですと汚物流しが傾き、壁の間に隙間ができたり、洗浄不良や汚物流しの脱落の原因になります。

●取付けのご注意

- 施工には同梱された施工型紙を使用して取り付けてください。
- 施工方法

給排水の位置決め、取出し

施工完了図に従って給水管・排水管を取り出してください。

◆注意点

- 器具取付け前に給水管・排水管内に異物が混入しないようにしてください。
- 給水管にはプラグ 排水管にはビニール袋等でカバーしてください。

2 壁フランジ（別手配）の取付け

【金属製フランジ（鉛管専用）の場合】 <フランジは 75LP の場合 CF-23AW を使用>

1. 排水管を、壁仕上面より外側に 15 ～ 20mm 分残して切断します。
2. 中心線を位置合わせして施工型紙を壁に当て、型紙に開いている固定穴位置にφ 3 程度、深さ 45mm の下穴を開けます。

◆注意点

  - コンクリート壁の場合は、AY ボルト AY-2 を別途手配して、φ 7.5、深さ 50mm の下穴をあらかじめ開けてください。
  - 2 個のビス取付穴は床面と平行にしてください。
3. 施工型紙を挟んだ状態で、フランジをビスで壁に固定します。

◆注意点

  - フランジの取付けは施工型紙の上から行ってください。
4. 排水管をフラット面に沿って亀裂、破損をさせないようにツバ上げします。

◆注意点

  - 十分ツバ上げできない場合は、シールが不完全となり漏水の恐れがあります。その場合、フランジと鉛管のツバ部をハンダ付けしてください。

【樹脂製フランジ（塩び管専用）の場合】 <フランジは VU75、VP75 の場合 CF-23AWP を使用>

1. 塩び排水管を、壁仕上面と同一面上になる位置で切断します。

◆注意点

  - 右図のように、継手を壁仕上げ面から 10mm 以上控えるようにしてください。  
※ 10mm 以下になると木ねじが配管に干渉し、施工不良となる恐れがあります。
2. 中心線を位置合わせして施工型紙を当て、型紙に開いている固定穴位置にφ 3 程度、深さ 45mm の下穴を開けます。

◆注意点

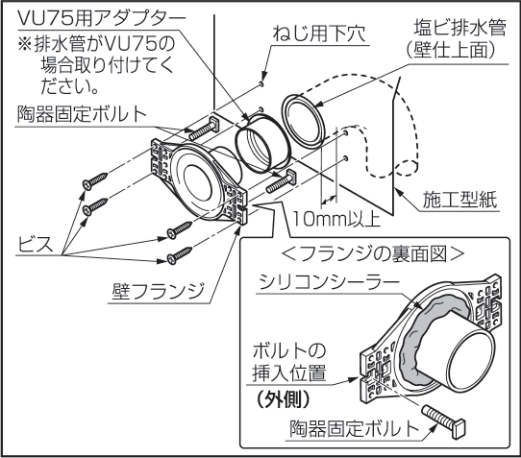
  - コンクリート壁の場合は、AY ボルト AY-2 を別途手配して、φ 7.5、深さ 50mm の下穴をあらかじめ開けてください。
  - 4 個のビス取付穴は床面と平行にしてください。
3. フランジを塩び排水管に仮挿入し、ガタの有無を確認してください。

◆注意点

  - VU 管の場合、あらかじめ塩び用接着剤でフランジに VU75 用アダプターを根元まで確実に接着してください。
4. フランジ裏側の外側の凹み部に陶器固定ボルトを裏側から通した状態で、フランジと排水管の両方に塩び用接着剤を塗布し、施工型紙を挟んだ状態でフランジを塩び排水管側に確実に接着します。

◆注意点

  - フランジと塩び排水管の接着前に、陶器固定ボルトを裏側から通した状態で、フランジと排水管の両方に塩び用接着剤を塗布し、フランジ裏側の凹み部に取り付けてください。  
※接着後には取付けができません。
  - フランジと塩び排水管との間にガタがある場合には、4. の作業時にフランジ根元にφ 10 程度の太さで全周にシリコンシーラーを塗布してください。
5. 施工型紙を挟んだ状態で、フランジをビスで壁に固定します。



◆注意点

- フランジは壁面に木ねじまたは AY ボルトで確実に固定してください。  
※固定が不十分な場合、十分なシール性が得られず漏水する恐れがあります。
- 塩ビ排水管の切断面は必ず壁面と同一面になるようにしてください。  
※切断面と壁面を同一にしないと十分なシール性が得られず漏水する恐れがあります。
- 陶器固定ボルトはフランジ背面の凹面に確実ににはまるようにしてください。  
※確実ににはめ込まないと十分なシール性が得られず漏水する恐れがあります。
- シリコンシーラーをご使用の際は、排水管内にシリコンのはみ出しがないか確認し、はみ出している場合には、シリコンをふき取ってください。
- シリコンシーラーは当社別売品 (PBM-100G) もしくは市販品をご使用ください。

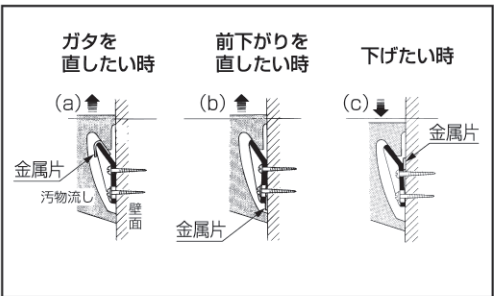
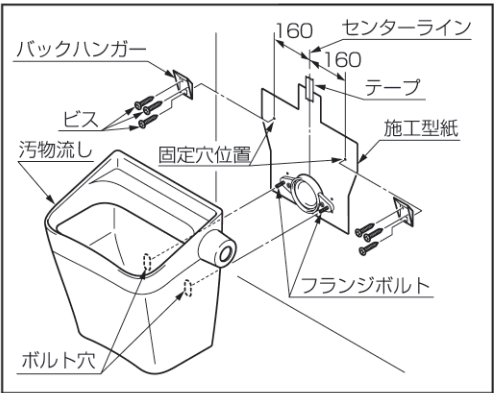
### 3 バックハンガーの仮止めおよび固定

型紙の固定穴位置に合わせて固定穴を開け、バックハンガー長穴の中心を合わせて仮固定します。

1. 施工型紙を壁にぴったりと伸ばし、センターラインを合わせた状態で壁にテープ等で仮止めし、型紙に開いている固定穴位置に下穴を開けます。
2. 型紙の開口に合わせてバックハンガーを仮止めし、汚物流しを仮に取り付けます。

◆注意点

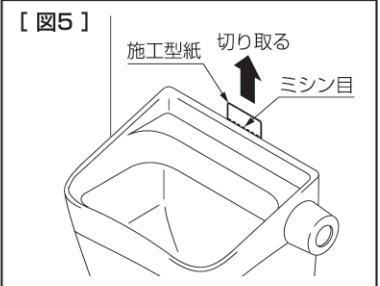
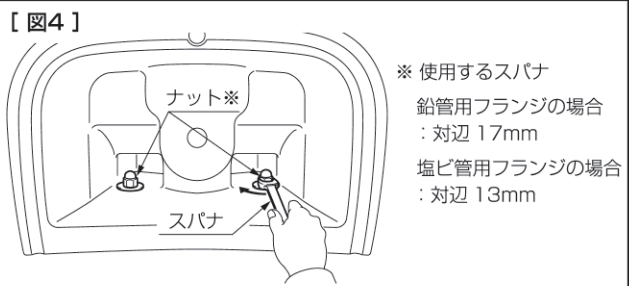
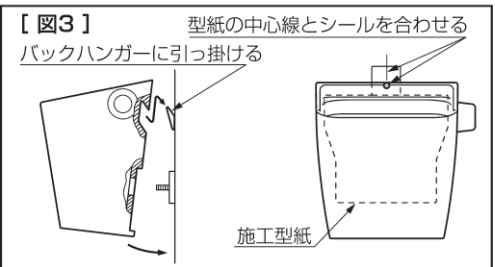
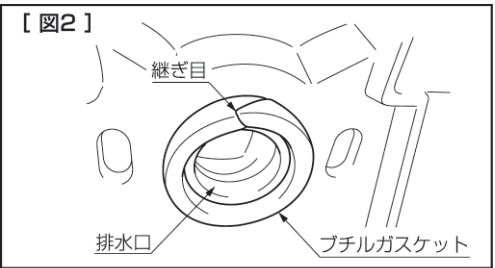
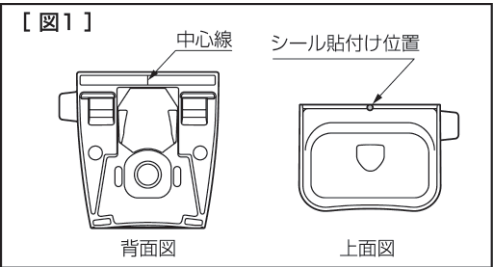
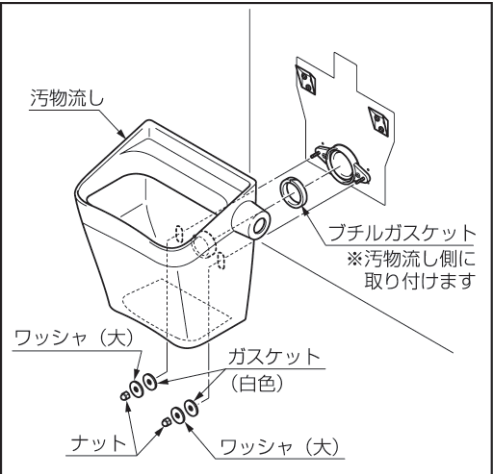
- ボルト穴にフランジボルトが入らなかったり、汚物流しが水平に取り付かない場合は、長穴を利用してバックハンガーを上下にスライドさせて調節してください。
3. 汚物流しをいったん取り外した後、バックハンガーの固定位置を決め、残りのビスを取り付けて、バックハンガーを固定します。  
※汚物流しをバックハンガーに仮に取り付けた際は、汚物流しを押さえ、左右の傾きやガタつき、前下がりを確かめます。傾き、ガタ、前下がりのある場合は、金属片の小片を下がっている方、またはガタつく方のバックハンガーの上面 (図 a) に折り曲げてあて、また汚物流しの前下がり直したいときはバックハンガーの下部 (図 b) に、下げたいときは上部 (図 c) に金属片をはさんで汚物流しが水平になるように調節してください。汚物流しと壁の間にすき間が発生する恐れがあります。



### 4 汚物流しの取付け

◆注意点

- 汚物流しの重量は 30kg 程度です。取付作業は、2人で行うことを推奨します。  
※ 1人で取り付けると、腰を痛めたり、汚物流しを落としてケガをする恐れがあります。
  - 工具による汚物流しの固定は、強く締め付けすぎないでください。  
※ 汚物流しが破損し、ケガをする恐れがあります。
  - 汚物流しの取付けは、施工型紙を使用して中心を合わせて施工してください。  
※ 汚物流しをずれて施工した場合、漏水の原因となることがあります。
1. [図 1] のように、汚物流しの裏面にある中心線に沿った汚物流しの上端の中央に同梱のシールを貼り付けます。
  2. [図 2] のように、汚物流しの排水口にブチルガasketを装着してください。漏水を防ぐため、ガasketの継ぎ目を上に向けた状態で取り付けます。
- ◆注意点
- 排水口周辺の汚れ、湿気を十分に取除いてからガasketを装着してください。
3. [図 3] のように、汚物流しを斜めにしてバックハンガーに引っ掛けた後、型紙の中心線とシールの位置を合わせて汚物流しを取り付けます。
  4. [図 4] のように、汚物流しの下から規定の対辺のスパナ※を用いて左右2個のナット確実に固定してください。
  5. [図 5] のように、汚物流しの上側にはみ出た型紙を上引っ張り、ミシン目に沿って切り取ります。



## 5 フラッシュバルブの取付け

### 【洗浄管の取付け】

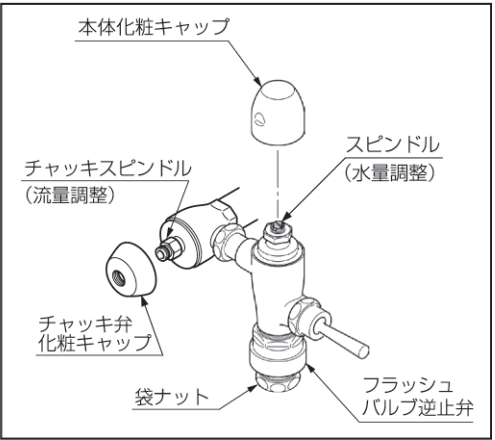
フラッシュバルブに同梱された施工説明書を参照し、壁面へ取り出した給水管に止水栓を取り付けます。

◆注意点

- ① ネジ部にシールテープ等のシール材を巻きつけてください。
- ② 止水栓の表面に傷が付かないように、布等で保護してください。

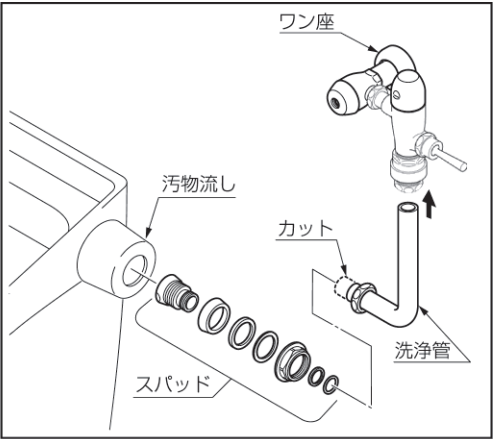
### フラッシュバルブの取付け

1. フラッシュバルブ本体に逆止弁を取り付け、フラッシュバルブ止水栓に固定します。



### スパッド、洗浄管の取付け

1. 汚物流しにスパッドを取り付けます。
2. 洗浄管 (袋ナット付) を適切な長さにカットし、フラッシュバルブ本体と洗浄管と汚物流しのスパッド間をつなぎます。
3. 壁仕上面側の洗浄管にはワン座を取り付けてください。



### 【水量、水勢の調整および通水確認】

※この汚物流しは、節水型、オートフラッシュ C を組み合わせて使用できます。

#### ◆オートフラッシュ C を使用する場合

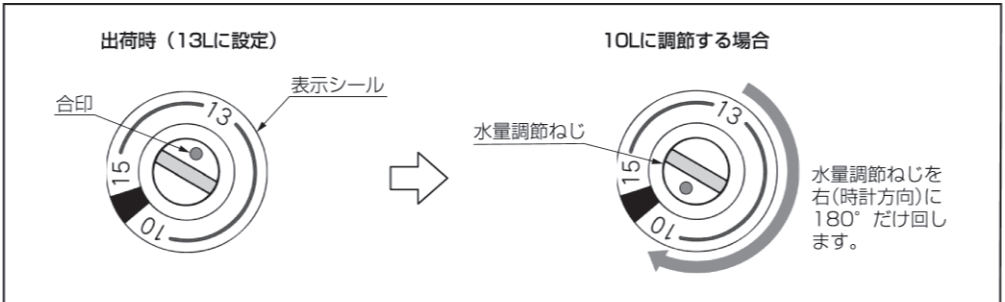
オートフラッシュ C に同梱された施工説明書をご確認の上、水量を 13L に調整されたままの状態を取り付けてください。

#### ◆節水型フラッシュバルブを使用する場合

##### 1. 水勢の調節

水勢は、使用場所・水圧・配管などの諸条件によって変化するため、チャッキスピンドルを回して調節してください。

- ▶ 右に回す (時計方向) : 水勢が弱くなる
- ▶ 左に回す (反時計方向) : 水勢が強くなる



##### 2. 洗浄水量の調節

本体化粧キャップを外し、水量調節ねじを回して、合印を「10」の位置に合わせます。

◆注意点

- 表示シールの数字は目安です。水圧などによって前後しますので、必ず汚物流し鉢内の洗浄を数回行い、鉢内洗浄が確実にに行われている事を確認してください。
- 水量調節ねじは、一回転 (13 ~ 10) 以上回さないでください。  
※一回転以上回すと、表記の洗浄水量が確保できなくなります。
- 水量調節ねじの現在の位置が分からなくなった場合には、いったん水量調節ねじを全閉の状態にし、ねじを半回転 + 45° 開くと 10L 調節の位置に合わせることができます。

### 施工後の点検、清掃

- フラッシュバルブを操作して、汚物流し鉢内を洗浄し各接続部に漏水がなく、鉢内洗浄が良好で水の飛び散りがないことを確認してください。  
※排水接続部は数回繰り返して水を流さないことが確認が困難な場合があります。
- 鉢内洗浄の良否は長さ 760mm のトイレトペーパーを丸めたもの 7 個が 1 回の操作で排出できるかどうかで確認してください。
- 漏水チェック後、水勢の調節とクリーニングを行ってください。  
※通水の際は 2 名以上の人員を配置し、異常がある場合は直ちにもとバルブを閉められるようにしてください。また、必ず通水試験を行うことを関係者に連絡し、了解をとってください。  
別のところでも工事を行っていて、配管が接続されていないことがあります。  
※通水開始直後は、工事に伴い配管中に混入したゴミが流出してくる可能性があります。フラッシュバルブ、シャワー水栓、電気温水器の給水分岐水栓のストレーナーやバルブの止水栓に付いたゴミは除去してください。